

Nは55%前後と地上部に多いが、Pは逆に地下部に多く、特に地下茎に40%と高い。Kも地下部に多く、3つの部位にはほぼ均一に分布している。Ca, Mgはいずれも地上部が65%で高く、地下茎への分布は小さい。微量元素はZnを除くと地下部に多く、特にFeとAlの大部分は根に分布している。Znは地上部と地下部におよそ同程度に分布していると推定される。

以上の結果から、各無機成分はヨシの地上部、地下茎、根の各部位に特徴的なパターンで分布され、またその分布パターンはヨシの生育状況の良否にかかわらずほとんど変わらないことが明らかになった。

おわりに

本研究に用いたヨシは最初に述べたように9月の中旬から下旬にかけて採取されたものであり、ヨシにとっては最大成長期を過ぎて枯死過程に入った時期である。ヨシなどの抽水植物は最大成長期の前後から秋にかけて徐々にNやPなどの栄養元素の一部を地下部に移行、貯留することが知られている (Teal 1980, 鈴木ほか 1988)。従って、こうした無機成分の各部位への分布の割合はヨシの成長時期によって異なっていくことが当然予想されることである。今後はヨシの成長・枯死過程で種々の無機成分の各部位への分布がどのように変化していくかを検討していくことが必要であろう。

引用文献

1. 桜井善雄, 芋木新一郎, 上野直也, 渡辺義人: ヨシ植栽地の土壌条件に関する実験的検討. 水草研究会報. No.38, 2~5, 1989.
2. 渡辺義人, 桜井善雄: 抽水植物の成長・枯死過程における植物体中N, P含量の変動とその現存量

○我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会編集『我が国における保護上重要な植物種の現状』(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会発行、1989年11月、320頁、頒価3,500円)

今、我が国ではどのような植物種が絶滅の危機に瀕しているのか。標記の委員会が、全国の植物研究家の協力を得て3年がかりでまとめた報告書、いわゆるレッド・データブックである。我が国に生育する5300種の植物種(シダ類以上)の約17%に相当する895種が、絶滅種、現

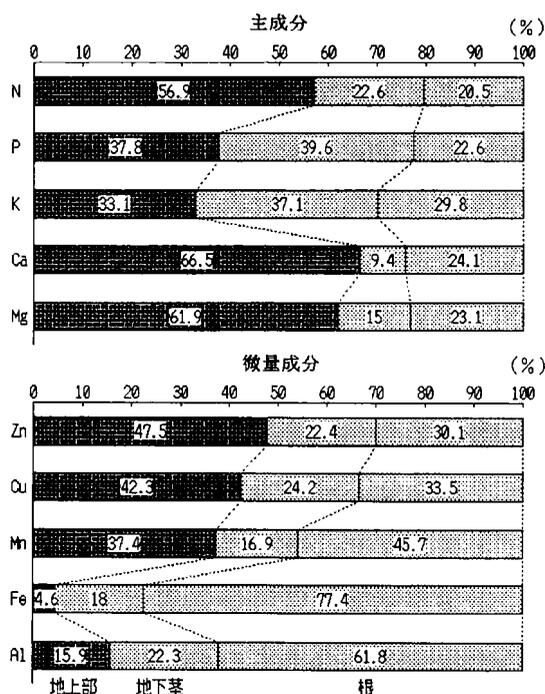


図6. ヨシの各部位における無機成分の分布割合

- 環境科学研究報告書. B-341-RO2-2, 26-37, 1988.
3. 渡辺義人, 松沢順一: 抽水植物の化学組成. 日本陸水学会52回大会講演要旨, D26, 1987.
 4. Teal, J. M.: Primary Production of Benthic and Fringing Plant Communities. Barnes, R. K. ed., "Fundamentals of aquatic ecosystem", 67~83, 1980.
 5. 鈴木孝男, 武田哲, 栗原康: 塩性湿地, "河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー", 栗原康編著, 東海大学出版会, 142~149, 1988.

状を放置すると早晚姿を消すであろう危険種、あるいは現状不明の稀産種としてリストアップされている。あわせて野生植物の保護の必要性、その保護のために必要な方策が提言されている。内容を詳しく紹介する紙面はないが、今、最も危機に瀕する植物群のひとつが水草や湿地の植物であるという事実は書き落とすわけにはゆくまい。日本の植物とその保護に関心のある方は、ぜひ手元においていただきたい一冊である。

(角野康郎)